

守口市水道局

よくわかる 『配水場施設整備基本計画』

～ 100年先も安心を 未来へ続く水道水 ～

05. Sep. 2026



はじめに

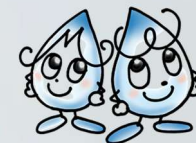
本市は、令和6年4月から大阪市と庭窪浄水場の共同運用を開始し、旧守口市浄水場は、現在、『守口市配水場』として稼働しています。

浄水場施設は共同運用によって災害に強い施設となりましたが、配水場施設の多くは、高度経済成長期（昭和30～50年頃）に整備してきたもので、老朽化が進んでいます。

そこで、将来にわたって安全で良質な水を、安定的に送れるように、『配水場施設整備基本計画』を策定しましたので、守口市水道局の今後の取り組みを、できるだけわかりやすくお伝えします。



水道水は、どこからどうやって届けられるの？



毎日何気なく使っている水道水。みなさんは水道水がどこからどのようにして届けられているかご存じでしょうか？今後の守口市の取り組みをご紹介します前に、水道水が蛇口に届くまでの水の流れを紹介します。

ステップ1 淀川の水を取り込みます

淀川の中に、川の水を取り込むためのコンクリート製の大きな取水口を設けていて、取水口から堤防の下に埋められたパイプ（取水管）を通じて庭窪浄水場に水を送ります。

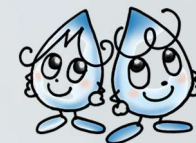
これら施設を「取水施設」といい、大阪広域水道企業団・大阪市・守口市の三者で共同して建設し、平成25年9月から運用を開始しました。

比較的近年に建設された施設で、**大きな地震にも100%耐えられる強い施設です。**

施設名称：大阪広域水道企業団・大阪市・守口市共同取水施設



水道水は、どこからどうやって届けられるの？

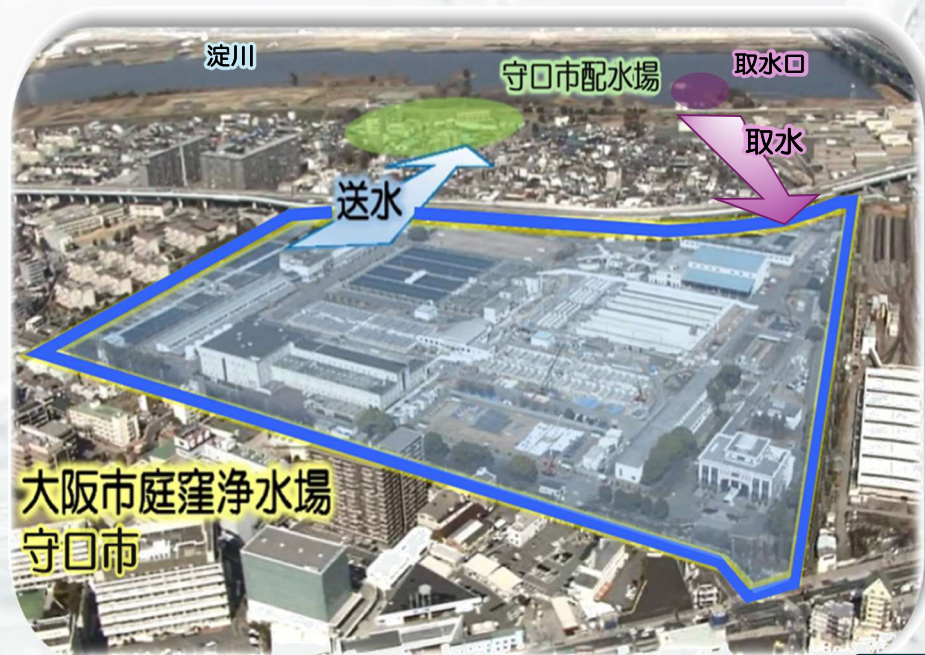


ステップ2 淀川の水をきれいにします

施設名称：庭窪浄水場

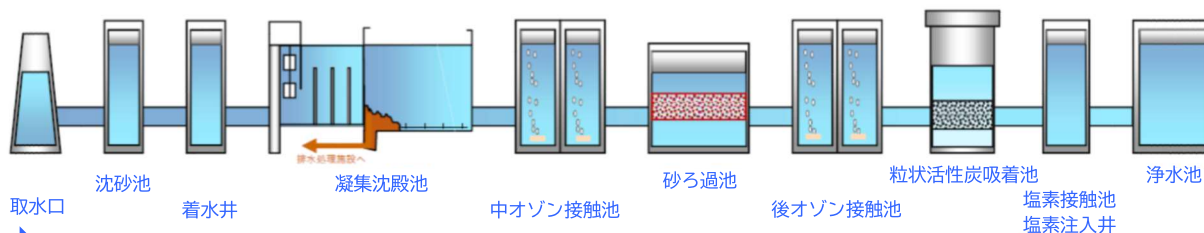
庭窪浄水場では、取水施設から送られてきた水に薬品を混ぜて不純物を沈でんさせ、砂を使ったろ過施設で不純物を取り除きます。次にオゾンや活性炭を使用して、さらに細かな不純物を取り除くことで「おいしい水」にして、最後に塩素で消毒して飲める水ができあがります。

これら施設を「浄水施設」といい、大きな地震に耐えられる浄水施設の割合は30%で、令和20年度に100%になる見込みです。



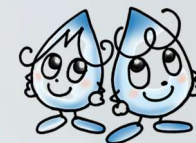
守口市配水場へ送水

■ 庭窪浄水場 浄水処理フロー イメージ図



淀川

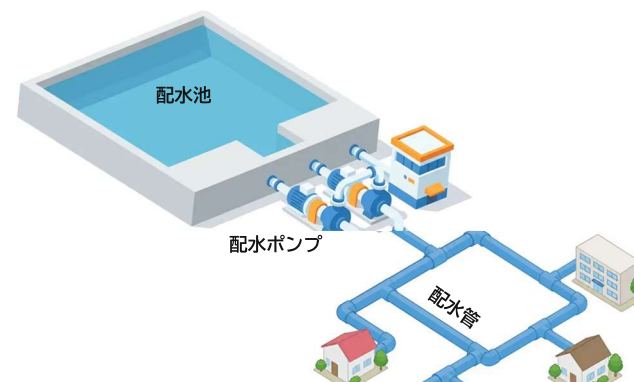
水道水は、どこからどうやって届けられるの？



ステップ3 きれいな水を貯めて市内の端まで送ります

施設名称：守口市配水場

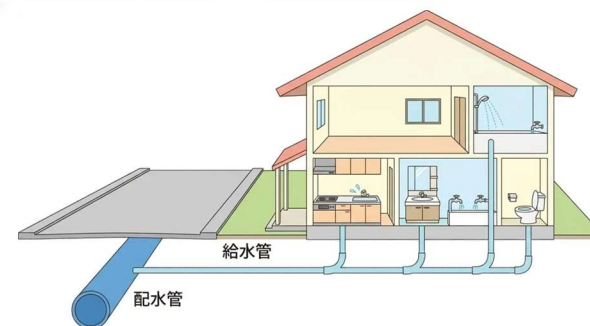
庭窪浄水場できれいにした水を、道路の下に埋められたパイプ（送水管）を通じて守口市配水場に送ります。送られてきた水を、「配水池」というコンクリート製の大きなタンクに一旦貯めて、「配水ポンプ」という市内の端まで水を送ることができるとても強いポンプの圧力で、道路の下に埋められた「配水管」を通じてみなさんのおうちの前まで送ります。



ステップ4 各ご家庭へ水が届けられます

施設名称：給水装置

みなさんのおうちの前の道路の下には、「配水管」が埋められていて、その配水管から各ご家庭に対して「給水管」が枝分かれしています。給水管は「水道メーター」を通じて、蛇口まで繋がっていて、蛇口をひねると水が出るという仕組みになっています。



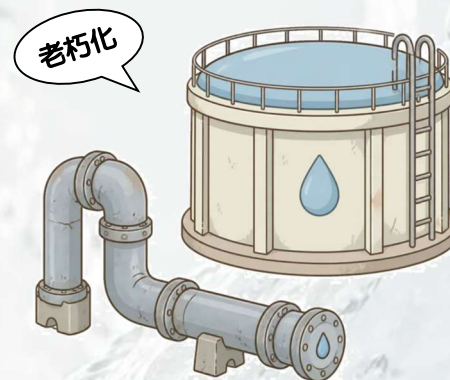
いま、守口市の水道が抱えている課題



課題1 配水場施設の老朽化が進んでいます！

水道施設は、それぞれの役割を持った、たくさんの施設がチームのように連携して働いています。本市の水道施設のうち、「取水施設」や「浄水施設」は、地震に強い施設ですが、「配水池」・「配水ポンプ」や「水道局庁舎」といった配水場施設は、高度経済成長期に多くの施設を整備してきたことから、老朽化が進んできています。

老朽化した施設をそのままにしておくと、南海トラフ地震といった非常に大きい地震が発生してしまうと、施設そのものが壊れてしまい、長期間にわたってみなさんに水を届けられなくなってしまいます。



課題2 水需要が減って給水収益も減っています！

これから先、守口市の人口が少しずつ減っていくことが予想されています。そうすると、みなさんからいただいている水道料金の収益が減っていきます。

つまり、使えるお金が限られてくる中で、やりくりをしていかなければなりません。



施設整備基本計画で目指す取り組み



取組1 災害に強い配水場にします！

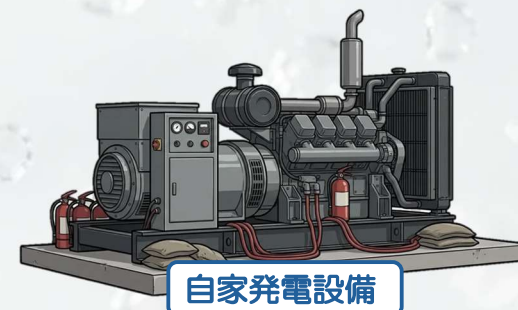
取水施設や浄水施設が大きな地震に強い施設であるのに対して、守口市配水場の施設は全体的に老朽化が進んでいて、将来にわたって安全で良質な水を安定的に供給するためには、施設の建て替えが必要となっています。

近い将来に発生が予測されている南海トラフ巨大地震のような、甚大な被害を引き起こすおそれのある地震にも耐えられる、**耐震性能を有する配水池、配水ポンプ**および水道局庁舎の建て替えを、今後約20年かけて実施し、**その後に残った古い施設を壊す予定**としています。

また、配水場施設は多くの電力を利用しています。

もし、地震や台風などの災害で大規模な停電が発生すると、配水場の機能が停止してしまいます。

そこで、災害などによる停電が発生した場合にも、みなさんに水が届けられるように、**自家発電設備を新しく設置**します。



施設整備基本計画で目指す取り組み

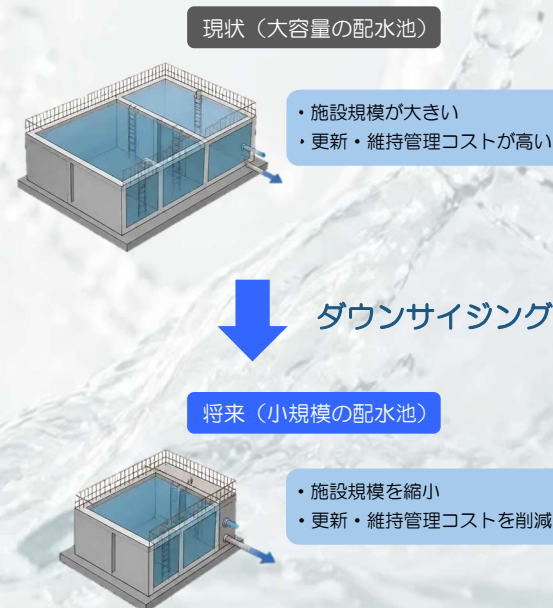


取組2 将来を見通し、無駄な投資はしません！

これから先、守口市の人口が少しずつ減っていくことが予想されています。それに伴い、みなさんが毎日使う水道水の量も減っていきます。

そこで、古くなった施設を新しくする際には、将来使う水の量をしっかり予測したうえで、必要以上に大きすぎない「身の丈に合った施設規模」にすることも考えていきます。

これにより、将来にわたって無駄なコストがかからない、効率的な施設づくりを目指します。



取組3 周辺地域への工事の影響についての配慮！

本計画はとても長い時間をかけて計画的に進めていくものです。工事を行う際には、近隣にお住いの皆様の生活に影響がでないよう、十分に配慮して工事を行います。

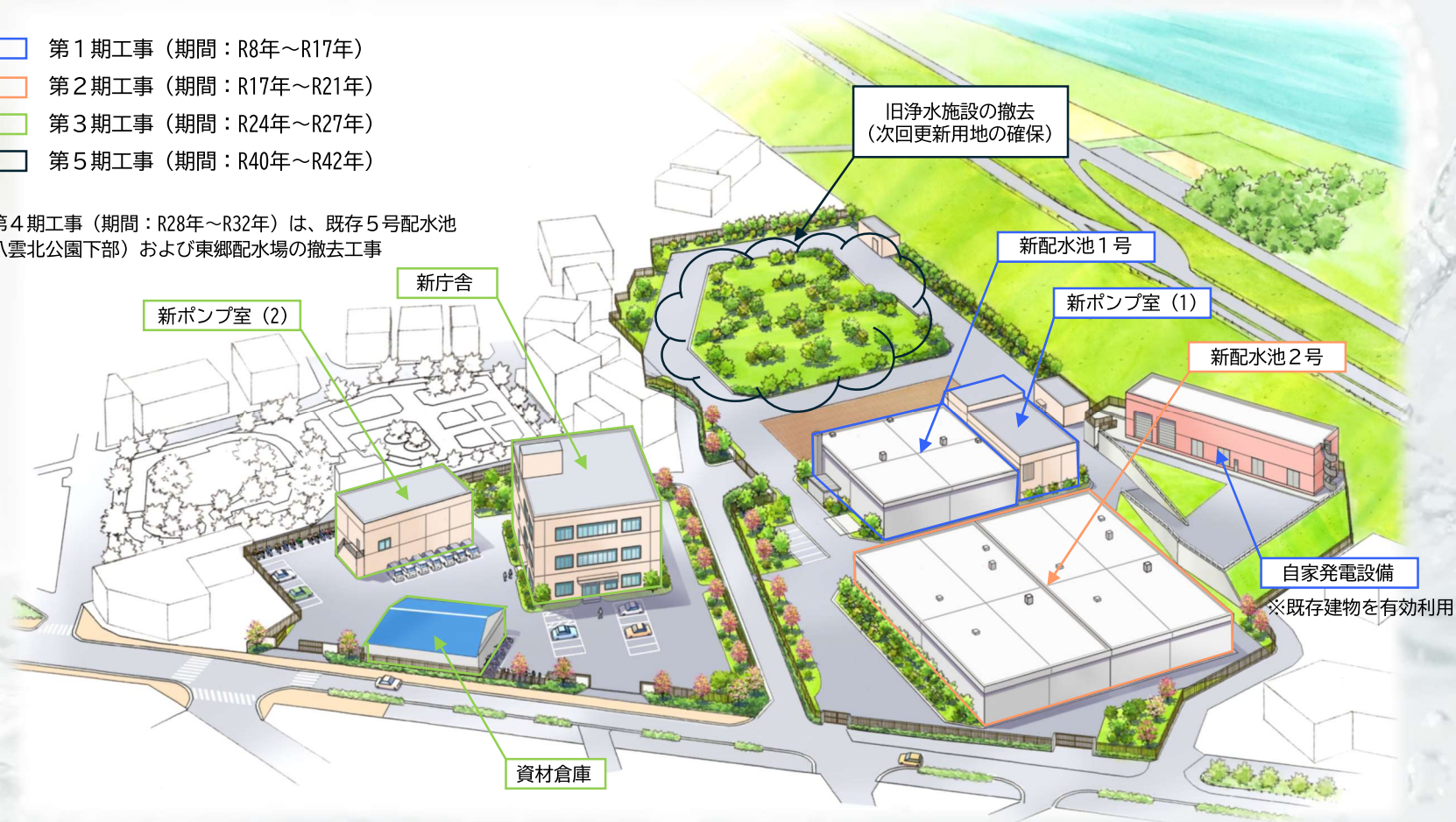
また、敷地内に木や草花を植えるなど、**緑を多く取り入れ**、施設の周辺がより安らぎのある環境になるように努めます。



『守口市配水場』完成予想図

- 第1期工事（期間：R8年～R17年）
- 第2期工事（期間：R17年～R21年）
- 第3期工事（期間：R24年～R27年）
- 第5期工事（期間：R40年～R42年）

※第4期工事（期間：R28年～R32年）は、既存5号配水池（八雲北公園下部）および東郷配水場の撤去工事



将来の水需要を予測し、適正な施設能力にすることで無駄を省き、緑を多く取り入れることで環境に配慮した配水場としています。

工事期間が長期になるため、**工事を5回に分けて計画的に建て替えを行います。**

施設整備事業による効果

効果1 耐震化率の向上による効果

古い施設を地震に強い構造に更新する（耐震化する）ことで、施設の「耐震化率」が向上します。

これにより、大きな地震が発生しても施設が壊れにくくなり、**断水する可能性を大きく減らすことができます。**

✓ 配水施設の耐震化率の推移

施 設		単位	R7年度末	R14年目標値 (水道ビジョン)	第1期工事 その2完成後	第2期工事 完成後	第3期工事 完成後	第4期工事 完成後	第5期工事 完成後
配水施設	配水池の耐震化率	%	16.7	30.0	28.9	69.8	81.0	100	100
	ポンプ施設の耐震化率	%	34.8	65.0	65.0	65.0	84.7	100	100



計画的に100%
を目指すよ！

効果2 ダウンサイジングによる効果

施設の更新をする際に、今の規模のままではなく、将来の需要に見合った規模に縮小（ダウンサイジング）することにより、必要以上の**建設コスト**や、日々の運営に係る電気代などの**維持管理費を抑えることができます。**



今後のスケジュール

令和6年4月

大阪市と庭窪
浄水場の**共同
運用を開始**
一部浄水施設を
雨水貯留施設
として転用

第1期工事（期間：R8年からR17年）

既存浄水施設等の撤去
既存1号配水池の撤去
新1号配水池、新ポンプ室
(1)の築造
受配電設備更新
自家発電設備新設

第2期工事（期間：R17年からR21年）

既存浄水施設等の撤去
既存2号配水池の撤去
新2号配水池の築造



ご迷惑をおかけします。
ご理解とご協力を
お願いいたします。



第3期工事（期間：R24年からR27年）

既存4号配水池の撤去
車庫・倉庫等の撤去
新庁舎、新ポンプ室(2)の
築造 既存庁舎の撤去
既存第3ポンプ室の撤去
雨水貯留施設・倉庫の築造

第4期工事（期間：R28年からR32年）

既存5号配水池の撤去
東郷配水場の撤去

.....

第5期工事（期間：R40年からR42年）

既存高度処理棟の撤去
既存浄水施設等の撤去
雨水貯留施設の築造
次回配水池更新用地の確保

水道局マスコットキャラクター
しずくちゃん・みちくん



施設の更新は、“**未来への投資**”です。市民の皆さまには、水道事業が置かれている状況をぜひご理解いただき、引き続き温かいご協力をお願い申し上げます。